

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	衣料品専門店（店長）	・季節的な要因もあるかもしれないが、客1人当たりの買上点数が増加しており、客単価も上昇していることから、今後についても良くなる。
		家電量販店（店員）	・まだまだ薄型テレビの販売量が伸びることが見込まれる。薄型テレビの単価は下がっているが、DVDレコーダとのセット販売ができることから売上も見込める。ただ、白物家電が伸び悩んでいることが心配材料である。
		観光型ホテル（経営者）	・冬のイベント時期となり、本州からの観光客の増加が見込まれ、消費単価の上昇と相まって今後の好転が期待される。
		設計事務所（職員）	・雪解けという北海道特有の気候条件も後押しして、計画見直しや着工延期されていた建築物の工事が稼働し始めることが見込まれ、建設関連の景気は多少上向いてくる。
	変わらない	商店街（代表者）	・1月から始まる冬物のバーゲンの勢いが2月までは続くことが見込まれるが、春物の動向がどうなるか、まだ見えない部分もあり、全体としては変わらないまま推移する。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・景気については一進一退を続けているが、ここ数か月は底割れの気運も出てきている。このため、娛樂シーズンが間近となる3月になれば、酒の販売についても多少は上昇が見込める。
		百貨店（売場主任）	・長期予報でこの春は暖かいと予想されていることから、春物の動きが良くなることが見込まれる。
		百貨店（売場主任）	・これといった好材料が見当たらないため、今後も変わらないまま推移する。
		コンビニ（エリア担当）	・収入が増えない一方で、ガソリン代や灯油代が値上がりしていることに加えて、食料品の価格も値上がり傾向にある。今後もこの状況に変化はなく、客は単価の安い商品を求めるなどして、消費を控える傾向が強まることが見込まれる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・今後も客の健康志向が続くと見込まれるが、一気に景気回復とまではつながらない。
		旅行代理店（従業員）	・客の申込状況を見ると、可も不可も無い状況であり、決して景気が良くなるとは考えられない。
		旅行代理店（従業員）	・1月の個人国内旅行は全道的に順調だが、団体旅行の先行受注が伸び悩んでいることから、今後も変わらないまま推移する。
		タクシー運転手	・12月に札幌圏のタクシーの値上げが実施されたが、ここ数年、利用客が減り続けていることに加えて、札幌圏のタクシー台数がこの4年間で2割ほど増えている。このため値上げの効果は、利用客の減少とタクシー増車のマイナス要因で相殺され、前年並みの売上となることが見込まれる。
タクシー運転手		・今冬は極端な暖冬であることに加えて、原油高騰のあおりを受け、客の財布のひもはより一層固くなり、利用客の減少が見込まれる。	
その他サービスの動向を把握できる者	・観光客の減少がようやく底を打った様相を呈するなど期待がもたれるが、諸物価の値上がり傾向もあり、予断を許さない状況にある。		
住宅販売会社（従業員）	・所得の減少や雇用の不安定さに加えて、建築確認申請の厳格化が悪い状況に拍車を掛けており、今後も変わらないまま推移する。		
やや悪くなる	商店街（代表者）	・今後も各種製品の値上がりがめじろ押しであることから、客の動きが悪くなる。	
	百貨店（販売促進担当）	・今後も諸物価の値上がりが消費マインドを冷やし続ける。パーソナルギフトや自分へのご褒美といった購買を除けば、価格がワンランク下のものを選択したり、買うのを見合わせるといった生活防衛色が強まりそうである。	
	スーパー（店長）	・2～4月にかけて、食料品やビールの値上げなど、客の財布のひもを固くさせる要素が多すぎる。スーパーでもますます目玉買いばかりが目立つようになり、客の買上点数も客単価も下がってくる。	
	スーパー（企画担当）	・食料品の相次ぐ値上げにより、多少の買いだめ需要はあるものの、年明けから春先にかけては、更に値上げ品目が増加しそうであり、消費マインドを慎重にさせる。ガソリンや灯油の高騰も消費マインドを慎重にさせている。	

		スーパー（企画担当）	・お歳暮ギフト、クリスマスケーキ、おせちなどの予約状況を見ると、従来と同様にホテル商材などのこだわり商品の人気が高い一方で、低価格帯の商品の予約が増えていることから、先行きの消費行動の一段の厳しさを予感させる。	
		コンビニ（エリア担当）	・思っていた以上に農業が悪い。林業は好調で、漁業は場所によって差が大きい。全体として人口減少、所得減少の流れに物価上昇がぶつかるため、小売業にとっては良い流れとは言えない。	
		家電量販店（地区統括部長）	・北京オリンピックの直前には薄型テレビの需要が見込まれるが、3か月先の時点ではあまり変化が無く、需要は前年を下回ることが見込まれる。	
		一般レストラン（スタッフ）	・来年にはビール飲料の値上げが控えている。またガソリンや灯油の値上がりもあり、今後の収益は悪化する。	
		観光型ホテル（スタッフ）	・宿泊動向をみると、販売量は前年を若干上回っているが、単価が低いことから、全体売上では前年を維持するのが精一杯の状況であり、今後についてもやや悪くなる。	
		タクシー運転手	・食品を始めとする生活必需品の値上げにより、タクシーの利用が減る。	
		美容室（経営者）	・ガソリン、灯油、食料品等の値上がりの影響で消費者の警戒感が強くなっている。先行き不安のためか購買意識はかなり厳しい状況になっており、今後についてもやや悪くなる。	
	悪くなる	商店街（代表者）	・一般消費者にとって所得が増えないなか、消費税アップへの不安、社会保障費の負担増、そして現在の原油高による幅広い生活必需品の値上げなどの影響から、すべての消費に対して、消費者の生活防衛意識が強くなる。先行きに明るい展望はない。	
		コンビニ（エリア担当）	・年明けに食料品の値上げが横行することで、消費者の買い方は今まで以上にシビアになっていく可能性が高く、小売業の倒産が更に増加する。	
		コンビニ（エリア担当）	・原油高騰の影響でハウス農家などの離農が増えることになり、産業に対する影響が本格化するため、消費が低迷することになる。	
		スナック（経営者）	・何でもかんでも値上がりするなか、私達のような飲食関連の商売が一番あおりを受けることになる。先行きの見通しが全く分からない状況である。	
		スナック（経営者）	・今年に入り、各種製品の値上げや食品の偽装表示問題があり、スナックやクラブといった社交界を取り巻く環境は厳しくなっている。不景気という風の中で巻き返しは効かないと感じており、今後は業界の淘汰が進み、半分からいの店しか残ることができないのではないかと感じている。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-	
	やや良くなる	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・2008年1月以降の鉄骨を中心とした金属加工量は10～12月より大幅に改善される見通しである。本格的な稼働量の回復までに至るとは思えないものの、3月にはかなりの加工量を確保できることが見込まれる。	
	変わらない	金融業（企画担当）	・個人消費は、需要期である灯油や食料品の値上がりで弱みみで推移する。住宅着工は、落ち込み幅は縮小するが低水準のまま推移する。公共投資は減少が続く。観光関連は、外国人観光客の増加で観光入込客数の増加が期待される。総じて景気は横ばいで推移する。	
		司法書士 その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）	・今後の動向について、期待感が持てない状況である。 ・現時点で確定案件が少ないことから、今後も変わらないまま推移する。	
	やや悪くなる	食料品製造業（団体役員）	・年明け後、食料品を始めとした商品の更なる値上げが続くことに加えて、原材料や資材価格の高騰もあり、先行きについては今後も悪くなる。	
		輸送業（経営者）	・燃料の高騰が相当影響している。燃料価格が下がるということもないようなので、今後については悪くなる。	
		通信業（営業担当）	・来春を目途とした大型案件が少ないことから、景況感はどうも下向きにあると感じている。	
	悪くなる	司法書士	・これから厳寒期を迎えるなか、灯油、ガソリンの高騰は続くことが見込まれる。また、食料品等の値上げも控えており、景気は更に悪化する。	
	雇用 関連	良くなる	-	-
		やや良くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・内定辞退者が多いことから、企業が採用予定者数を充足できない状況にあり、新年度に向けて補充採用をしなければならぬことが見込まれる。

変わらない	人材派遣会社（社員）	・現時点において、目立った採用の動きがみられないことから、今後についても変わらないまま推移する。
	職業安定所（職員）	・冬季に向けての大幅な雇用需要が見込まれないことから、今後も変わらないまま推移する。
やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・建設業や貨物運送・物流業の求人数は、前年比で2割以上も減少している。その他の小売業、飲食業も前年からのマイナスが続いている。好調な業種は人材派遣やコールセンターなど間接雇用業種などが中心であり、今後数か月、こうした傾向は大きく変わらない。
	職業安定所（職員）	・今後も、新規求人数が低調に推移することが見込まれ、雇用環境が改善することは見込めない。
悪くなる		